

平成30年北海道胆振東部地震から3年を迎えて

北海道で初めて震度7を記録した平成30年北海道胆振東部地震から、3年が経ちました。最愛のご家族を思いやる暇もなく旅立たれた御霊の無念さ、ご遺族・ご友人の深い悲しみを想うと、今でも止めどなく痛惜の念が込み上げてきます。改めてこの震災で犠牲となられた全ての方々に謹んで哀悼の誠を捧げます。

この度、つたえり公園に慰霊碑を建立いたしました。慰霊碑には、発災した時刻の3時7分が刻まれています。10秒にも満たないあの一瞬で、私たちが慣れ親しんだ自然景観は一変し、地域や家族の歴史を紡いだ家屋や生産基盤、森林は脆くも崩れ去りました。慰霊碑は、犠牲となった37名とともにこの地で同じ時を生きた証でもあります。午後0時の黙とうでも、改めて郷土の明日を切り拓いていく誓いを立てました。

市街地から全ての応急仮設住宅が姿を消し、被害が甚大であった北部地区も徐々にではありますが、落ち着きを取り戻しつつあります。すべてが元通りとはなりません、犠牲になられた方々、先達の思いを引き継ぎ、町では、自然豊かで安全な山間地を復元するため、北海道の全面的なご協力の下で被災山林の復旧計画策定の早期施業着手に向けて取り組んでいます。

未曾有の困難にあっても、私たちは決して復旧・復興への想いを閉ざすことなく、町民一人ひとりの災害に立ち向かう姿勢とご理解・ご協力で、ここまで復旧を進めることができました。今後も被災者の皆さまに寄り添い、誰一人として取り残すことのない復旧・復興を目指して、たゆまぬ努力を続けるとともに、被災の記憶を継承し、防災意識社会の実現を目指して参ります。

昨年につき、新型コロナウイルスの感染拡大は、被災地の復旧・復興の推進にも影を落としています。また、日本海溝・千島海溝連動のプレート型大地震にも備えていかなければなりません。これから先も

新たな困難に直面すると思いますが、みんなが一人のために、一人がみんなのために協力し合い、都市との共生や地方の安全な空間を活かしてこそ、犠牲となられた方々から託されたふるさと厚真町の復旧から復興へ、復興から創生への歩みが着実なものになると信じています。

開拓の歴史の中で先達者が努力を重ねて築き上げてきた豊かな大地と、次代に託した希望を町民の皆さまと大切に共有して再建を果たし、その先にある未来で輝き続ける厚真町の創生を町民の皆さまと共に実現したいと思います。

最後になりますが、犠牲となられた37名の御霊が永遠に安らかならんことをお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆さま、町民皆さまのご平安とご健勝を心から祈念し、町民の皆さまへのメッセージとさせていただきます。

令和3年9月6日

厚真町長 宮坂尚市朗